

IMF サーベイ

IMF ワークプラン

ラガルド専務理事、IMF の優先 5 課題を明示

IMF サーベイ・オンライン
2011年7月6日



IMF 新専務理事として初日を迎えたクリスティーヌ・ラガルド氏を出迎えるジョン・リップスキー筆頭副専務理事
(写真：IMF)

- 一部先進国で突出して高い失業率など、世界経済の回復は依然として不均衡
- IMF、連関性が一段と高まる世界経済の監視を継続
- ラガルド氏、IMF ガバナンス及び多様性の向上を目指す

国際通貨基金（IMF）の新専務理事に就任したクリスティーヌ・ラガルド氏は、187カ国が加盟する IMF が引き続き世界経済で中核的役割を果たせるよう、同組織の再活性化に向けた優先 5 課題からなるアジェンダを明示した。

専務理事として初の記者会見に臨んだラガルド氏は、一部の国で失業率が高止まりしているなど、世界経済の回復は不均衡との認識を示した。

一部の先進国では債務問題が悪化し、新興市場国では、景気過熱のリスクや一部の低所得国の問題でもあるインフレの可能性が懸念されるなど、世界経済は多くの問題を抱えている。

7月5日に新専務理事に就任したラガルド氏は「我々の前に広がる状況は2年前より好転しているが、回復のプロセスは一様でないことは明らかだ」と述べた。

前フランス財務相のラガルド氏は、IMF と世界経済が直面している課題 3 分野、及び IMF の実効性と活動を強化する 2 課題を示した。各々「C」で始まる対外的な課題は以下の 3 点である。

- **連関性（Connectiveness）**：一段と結びつきが強まっている世界経済を、IMF は引き続き監視し、一国から他国へ拡大する波及効果の問題の可能性について各国に注意を促す必要がある。「危機の間我々は、全ての国、部門、業界、そして金融が、各々そして相互に非常に密接に結びついているという現実を目撃した。我々は、この相互連関性に対応しなければならない」
- **信頼性（Credibility）**：IMF が信頼を得るには、その分析と活動が、率直かつ公平で信頼に足るものでなければならない。「特別待遇が必要な国グループは存在せず、また厳しい扱いを受けるべき国グループも存在しない。公平性、平等な機会が、今後の私のキーワードの一つとなる」

- **包括的 (Comprehensive)** : IMF は、財政赤字など従来のマクロ経済的基準のみで、各国の経済を検証すべきではない。雇用など社会問題をはじめとする他の要因も考慮する必要がある。

ラガルド氏は、労働や貿易を専門とする他の国際機関などとの連携が不可欠との考えを示した。

また IMF の運営に関して同氏は、1944 年設立の IMF の正当性及び多様性の向上を図りたいとした。

- **正当性** : ラガルド氏は、IMF のガバナンスの改善と同組織での主要新興市場及び途上国の発言権の強化を目指した 2010 年の改革を、IMF の加盟国が完了しなければならないと述べた。
- **多様性** : IMF の初の女性トップに就任したラガルド氏は、多様性について、性別の面のみでの課題ではないと述べた。「これは、参加の問題であり、様々な境界線を消し去り、障害を取り除くことであり、全ての人々がテーブルにつくことができるようにすることだ。そして、これは性別の面にも関わることであり、同様に、地理、文化、学歴といった側面にも関わることだ」

ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のトップとしての経歴も有するラガルド氏は、ドミニク・ストロスカーン氏の辞任の後、IMF の指揮に当たっていたジョン・リプスキー筆頭副専務理事を「IMF の素晴らしい代弁者であり、スポークスパーソンであり、重厚でカリスマを備えた人物であり、この数週間を共にすることができたことを光栄に思う」と称えた。

ラガルド専務理事は、世界大恐慌以来最悪と言われた経済危機の後の世界経済の安定性の回復を支えることが、IMF の目標だと述べた。「不安定性が存在する所では安定性の回復を支える。そのような箇所は数多くある。さらに、人々の更なる幸福のために、世界各国が確実により良く機能するよう支えることが、我々の目標だ」